

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 61 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2024 年 1 月 25 日 (木) 13 時 30 分～14 時 46 分
2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)
3. 出席者 (順不同、敬称略)
 - (出席委員) 柳原主査、石川副主査、田村幹事、上田、梅原、柏木、工藤、小松原、佐々木、鈴木、高崎、新崎、福元、丸、横田、深栖 (協代理) (16 名)
 - (欠席委員) 坂下、山本 (武) (2 名)
 - (常時参加者) 出雲、小野、松本、満田、森本、前田、宮田、小林、山本 (雄)、上市、古田、美濃 (12 名)
 - (欠席常時参加者) 土田、山田 (2 名)
 - (オブザーバー) なし

4. 【配付資料】

- | | |
|---------------|---|
| F9Ph2SC61-1 | 第 60 回 LLW 廃棄体製作・管理分科会議事録案 |
| F9Ph2SC61-2 | 専門部会・分科会人事シート LLW 廃棄体製作・管理分科会 |
| F9Ph2SC61-3-1 | コメント対応一覧_L2 大型角型廃棄体製作検査標準 |
| F9Ph2SC61-3-2 | 附属書 I の引用元の確認を受けた修正案 |
| F9Ph2SC61-3-3 | 附属書 E, G, N, O, P の記載と本文の表 6 との整合性確認結果等 |
| F9Ph2SC61-4 | 標準合体版 (標準本体＋各附属書＋解説) |
| F9Ph2SC61-5 | 倫理教育 2023_LLW 廃棄体等製作・管理分科会からの意見 (集約結果) |
| F9Ph2SC61-6 | 2024 年度標準策定 5 か年計画案 |

5. 議事

(1) 出席者の確認

田村幹事から、16 名が出席しており、分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

田村幹事から、F9Ph2SC61-2 のとおり異動なしの旨の報告があった。

(3) 前回議事録案の確認

田村幹事から、F9Ph2SC61-1 に基づき、前回議事録案について説明があった。本分科会において追加コメントは無く、承認された。

(4) 前回分科会でのコメント対応

柏木委員から、F9Ph2SC61-3-1 に基づき、第 60 回分科会でのコメント対応について説明があった。標準策定時に未定である判断基準の表現について議論した。「所定値としておき仕様決定後に

具体的値を記載する」、「製造設計時に決定するような詳細事項は、受渡当事者間の協定で決定されとし、標準では判断基準を記載しない」という方針は妥当と考えられる。今後、現状の記載で進めるが、原子力学会標準にどの程度の詳細事項まで記載すべきかについては引き続き検討が必要である。

その他、資料中の表現の不適切な部分（主語の蓋は、・・・）について修文することになった。

（５）附属書Ⅰの修正内容の確認

柏木委員から、F9Ph2SC61-3-2に基づき、根拠データの引用元のコメントに応じた記載内容の修正について説明があった。

一部のコメント内容（「と考えられる」の追記）は、当該データは輸送容器を対象として取得したものであり、廃棄体容器は対象としていないため妥当性の表現は断定しない方がよいというもの。議論の結果、廃棄体容器でも引用データは技術根拠として利用可能と分科会にて判断できるため、この趣旨で表現を見直すこととした。

- ・（小野委員）評価式（コード）で計算されているのであれば、断定しても問題ないと思われる。
- ・（田村委員）「したがって、」以降の記載は、分科会にて判断したことが分かるよう表現を見直したほうがよい。

（６）附属書 E, G, N, O, P の記載と本文との整合性確認結果等

新崎委員から、F9Ph2SC61-3-3に基づき附属書の修正内容について説明があった。

表 0-1 について、廃棄体、固化体の表現が混在しているので再整理する。

表 E-5 について、出典の記載との整合性について確認し必要に応じ記載の修正を行う。

（７）標準合体版の確認

田村幹事から、F9Ph2SC61-3-4に基づき現段階の標準全体について紹介があった。

特に質疑なし

（８）その他

a) 2023 年度倫理教育の受講について

田村幹事から、F9Ph2SC61-5に基づき、2023 年度倫理教育の受講実績について説明があった。

18 名の委員全員が受講し各委員のご意見を集約したものを専門部会幹事に報告する。

b) 2024 年度標準策定 5 か年計画について

田村幹事から、F9Ph2SC61-6に基づき、来年度以降の標準策定計画案について説明があった。標準利用者が使いやすい構成になるよう、現行の標準案を再構成し、来年度 5 月ごろから本分科会で審議を開始することで進める。

6. 次回の予定

別途、調整する。

以 上